

まのみ

第60号 2014. 1



福島県土地改良団体職員連絡協議会

目次

新年のご挨拶	福島県土地改良団体職員連絡協議会	1
新年のご挨拶	会長 遠藤 正一	1
新年のご挨拶	水土里ネット福島	2
	(福島県土地改良事業団体連合会)	
	専務理事 櫻田 浩二	2
第三十七回総会		3
永年勤続表彰		6
勤続10年を迎えて	会津宮川土地改良区	7
	酒井 靖隆	7
勤続20年を迎えて	水土里ネット福島	8
	桃谷 孝俊	8
第三十六回全国土地改良大会(北海道大会)		9
水土里かがやく北の大地 明日を担う土地改良		9
く食と農業・農村の未来を確かなものに		9
支部だより		11
年男・年女		18
―今年の抱負―	高郷土地改良区	18
	後藤 学	18
せめて、気持ちだけは。	小田高原土地改良区	18
	星 友子	18
「年男・・・」	矢吹原土地改良区	19
	鈴木 禎一	19
五回目の年男	東根堰土地改良区	20
	石神 正雄	20
新会員のみなさんより		21
はじめまして	鮫川堰土地改良区	21
	大平 理恵子	21
八ヶ月の業務を終えて	伊達西根堰土地改良区	21
	浅野 大輔	21
お世話になります	福島市土地改良区	22
	佐藤 喜孝	22
土地改良区業務に従事して	昭和村土地改良区	23
	本名 久喜	23
初年度の内省と今後の決意	鶴川 洸一	23
	安積疏水土地改良区	23
	安中 雅伸	23
一年間を振り返って	安達疏水土地改良区	24
	三瓶 甚一	24
フツツカモノではございますが	水土里ネット福島	25
	佐藤 優祐	25
猪苗代町土地改良区職員となって	猪苗代町土地改良区	26
	佐藤 和貴	26
「二年目を振り返って」	会津大川土地改良区	26
	芳賀 章平	26

新年のご挨拶



福島県土地改良団体職員連絡協議会

会長 遠藤 正一

明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、ご健勝で輝かしい新年をお迎えになられたことと心からお慶び申し上げますとともに、当協議会に対しまして格別のご支援とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

昨年政府は、TPP環太平洋パートナーシップ協定参加を表明し、その後今年から減反の補助金を減額し、五年後には廃止することを決定しました。

TPPの交渉において、政府はコメを含め重要五品目の関税を維持したい考えですが、将来的にはすべての関税を撤廃することが原則であります。この場合、コメの生産額は半減すると福島県は試算結果を公表しました。

減反政策を廃止して、生産量を生産者が自ら決定し、転作補助金の上乗せで米の過剰生産による価格低下を防ぎ、日本型直接支払い制度で農

地保全を図るようですが、それぞれの地域の実態に合った政策をお願いしたいものであります。

非農家・会社経営者等から、減反政策は農家にコメの生産意欲を下げほか、減反でコメの値段が海外産より高くなるとの批判があり、政府はコメ農家を保護する政策から、自立を促す政策に転換するようです。

しかし、諸国をみても自国の食料を確保するために農家を保護する政策は多いはずで

新年から農家には暗い話になりましたが、農業を取り巻く環境は益々厳しい状況になると思われます。我々は共に手を携えこの難局を乗り越え、農業の基本となる土と水を守り、豊かな農村環境を将来につなげて行かなければならないと思っております。

結びに会員皆様にとって幸多い年となりますようご祈念申し上げます、新年のあいさつといたします。

新年のご挨拶



水^み土^ど里^りネット福島
(福島県土地改良事業団体連合会)

専務理事 櫻田 浩二

あけましておめでとうございます。

東日本大震災、そして原発事故から四年目となる年が始まりました。津波被災地域や避難指示区域では今なお復旧が進まず、十四万人近い人たちが県内外で避難生活を続けている状況ですが、福島県土地改良団体職員連絡協議会の皆様方には、これまでの災害復旧への対応、大変ご苦勞様でした。今後とも、農業農村の復旧、復興、再生に向け、ご尽力を賜りますようお願いいたします。

昨年十月末の農地中間管理事業に関する法律の閣議決定に始まり、平成二十六年度からの米の直接支払交付金の半減や日本型直接支払交付金の創設、平成三十年産米からの米の直接支払交付金及び生産目標数量の廃止など、農業政策の大きな見直しが行われました。今回の農業政策の見直しでは、十年後には、農地面積の八割を担い手となる経営体が耕作するよう、農地中間管理機構を使って農地集積を進めるとしています。

そのような中で、組合員から賦課金を集め、土地改良事業を実施し、農業水利施設等を管理している土地改良区は、地域の農業を支え、地域の農業を守る要の組織です。地域の農業を守るためには、土地改良区の運営基盤を維持強化していく必要があります。農地、農業用施設、そして組合員は全て土地改良区の運営基盤そのものであり、地域の農業を守っていくことが、土地改良区の運営基盤の維持強化に直結します。

その運営基盤を維持強化していくためには、土地改良区自ら積極的に農地中間管理事業に関わり、担い手となる経営体を育成し、農地を集積していく必要があります。また、日本型直接支払については、営農環境を適切に維持し、組合員の所得を確保し、賦課金の徴収率を確保するためにも、受益地全体の地域活動への誘導やとりまとめ、あるいは土地改良区自らが活動組織となることが望まれます。

新規就農者が年間二百人にも満たない現状が続けば、三十年後は黙っていても、基幹的農業従事者数は現在の一割程度になってしまいます。三十年後も地域の農業が続いているためには、要となる土地改良区の役割がさらに重要になります。また、土地連は、その土地改良区を支える農業土木の技術者集団であり続けなければならないと考えています。

春には水を湛えて一面が湖となり、夏には緑の葉先を風が渡る草原となり、秋には黄金色の稲穂が輝く豊饒の地となる、瑞穂の国日本の四季折々の田園風景。南米ペルーのパンアメリカンハイウェイの両側に延々と続く荒涼とした砂漠の風景とは異なる、この豊かな田園風景を守っていくためにも、福島県土地改良団体職員連絡協議会の皆様の、さらなるご活躍を御祈念申し上げます。

第三十七回総会

福島県土地改良団体職員連絡協議会第三十七回総会は、平成二十五年七月十一日（木）午後一時三十分から白河市「白河 関の里」において開催された。

遠藤喜雄副会長（そうま土地改良区）の開会宣言により開会、遠藤正一会長（安積疏水土地改良区）の挨拶の後、特別功労者・永年勤続者表彰が行われ、表彰状の授与及び記念品が贈呈された。



表彰を受ける受章者

表彰された方々は別頁のとおりです。受賞者の皆様のご健康とますますのご活躍をお祈りいたします。

表彰式後、福島県南農林事務所農村整備部長村上佐俊様、福島県土地改良事業団体連合会専務理事櫻田浩二様より来賓祝辞をいただいた。

議長に社川沿岸土地改良区の山寺一氏が選出され、挨拶後、議事に入った。



来賓祝辞：村上部長

議案第1号「平成二十四年度事業報告について」、議案第2号「平成二十四年度収支決算承認について」が一括議題として出され、事務局の説明、橋本雄司代表監査員（須賀川市土地改良区）の監査結果報告の後、原案のとおり承認された。

議案第3号「平成二十五年度補正予算（案）」について、議案第4号「平成二十六年年度会費・協賛金の額及び徴収方法（案）」について、議案第5号「平成二十六年年度事業計画（案）」、議案第6号「平成二十六年年度収支予算（案）」について」は事務局の説明後、いずれも原案のとおり承認された。



来賓祝辞：櫻田専務理事

次に、事務局より、土地改良区を広く知ってもらおうよう、今まで発行された機関紙「む

「つみ」を土地連のホームページに掲載する件について提案がなされ、賛成者の挙手多数により承認された。

以上7議案の審議を終了した。

総会は、村山恭子副会長（会津中央土地改良区）の閉会宣言により終了した。



福島県土地改良団体職員連絡協議会役員名簿

(平成24年度～25年度)

役職	氏名	所 属	方 部
会 長	遠藤 正一	安積疏水土地改良区	県 中
副 会 長	遠藤 喜雄	そうま土地改良区	相 双
副 会 長	村山 恭子	会津中央土地改良区	会 津
副 会 長	小林 剛	福島県土地改良事業団体連合会	土 地 連
幹 事	高橋 敏浩	福島市土地改良区	県 北
幹 事	巴 恵美子	安達疏水土地改良区	県 北
幹 事	森田多恵子	母畑地区土地改良区	県 中
幹 事	宮田 洋	阿武隈川上流土地改良区	県 南
幹 事	武田 博之	矢吹西部土地改良区	県 南
幹 事	佐藤 亨	猪苗代町土地改良区	会 津
幹 事	佐藤 貴子	雄国山麓土地改良区	会 津
幹 事	山口 茂起	西会津町土地改良区	会 津
幹 事	赤崎 政司	阿賀川土地改良区	会 津
幹 事	山内 翔	只見町土地改良区	会 津
幹 事	渡部 康徳	請戸川土地改良区	南会津
幹 事	菅波 孝光	愛谷堰土地改良区	相 双
幹 事	渡辺 強	福島県土地改良事業団体連合会	い わ き
幹 事	渡辺 隆	福島県土地改良事業団体連合会	土 地 連
代表監査員	橋本 雄司	須賀川市土地改良区	土 地 連
監 査 員	佐竹 孝	会津大川土地改良区	中 通 り
監 査 員	大井川和弘	鮫川堰土地改良区	会 津

業務研修会



白河警察署 小賀坂氏



矢吹原土地改良区 関根氏

業務研修会は、矢吹原土地改良区の関根拓哉氏による「21創造運動の取り組みについて」の事例発表、白河警察署交通課長小賀坂幸男氏に「交通安全について」の講演をいただいた。

二日目の現地研修は、ため池等整備事業（用排水施設整備）皮籠地区を白河市土地改良区武藤係長、滝田事業主事に事業概要や現況等を説明していただきながら見学した。次に福島県文化財センター白河館「まほろん」を見学し、遺跡や出土品を通して、地域の歴史や文化財に触れることができた。



現地研修 ため池等整備事業（用排水施設整備）「皮籠地区」



現地研修 「まほろん」

永年勤続者表彰

特別功労者

会津宮川土地改良区

永 峯 眞

三十年勤続

富岡町土地改良区

坂 本 仁

東根堰土地改良区

佐 藤 正 子

そうま土地改良区

佐 久 間 恵 子

安達疏水土地改良区

巴 恵 美 子

二十年勤続

母畑地区土地改良区

中 根 達 也

母畑地区土地改良区

森 田 多 恵 子

母畑地区土地改良区

中 村 孝 之

会津北部土地改良区

湯 浅 裕 治

福島県土地改良事業団体連合会

近 野 好 範

福島県土地改良事業団体連合会

桃 谷 孝 俊

福島県土地改良事業団体連合会

尾 形 聡

十年勤続

南相馬土地改良区

平 山 智

阿賀川土地改良区

斎 藤 昌 教

母畑地区土地改良区

安 藤 喜 真

会津大川土地改良区

大 竹 伸 明

駒形土地改良区

佐 藤 慎 子

会津宮川土地改良区

酒 井 靖 隆



永年勤続

「勤続10年を 迎えて」

会津宮川土地改良区
酒井靖隆

福島県土地改良団体職員連絡協議
会会員の皆様、明けましておめでと
うございます。

私、会津宮川土地改良区の酒井と
申します。この度、勤続10年を迎え
て表彰を受けたことから、寄稿依頼
があるぞと局長より言われておりま
したので、ドキドキしながら日々の
業務をこなしておりました。外見と
は裏腹に、意外と小心者の私ですが、
この紙面をお借りして、これまでお
世話になった皆様に御礼を申し上げ
たいと思います。ここまで私を成長
させていただきありがとうございます
ました。今後とも土地改良業務推進の

ために、全力を尽くす所存でありま
す。

さて、土地改良区の職員となり、
10年が過ぎましたが、大学を卒業し
て2年間は、金融機関に勤務してお
りました。会津人らしく「正しく生
きる」と、幼少より教えられて参り
ましたので、他人の口座には決して
手を付けませんでした。窓口担当
の他人（ひと）の娘には手が出てし
まい、それが役員の娘だったことか
ら、私が左遷されてしまいました。
そんなこんなで、二人の恋愛は幕を
閉じました。

（※注：上記「他人の娘」とは、現
在の妻であり、二人の馴初めであるこ
とを申し添えます。）

「あれから12年。」女の子だった妻
は、三児の母となり、世界最強女子
と名を馳せる吉田沙保里にさえ引け
を取らないくらい、たくましい女性
へと進化を遂げ、私は幸せそうな毎
日を過ごしております。

私の土地改良区職員の10年間は、
合併前の旧新鶴村土地改良区に1年

半お世話になり、合併後8年半は会
津宮川土地改良区にお世話になって
おります。旧新鶴村土地改良区の時
代は、先輩職員が退職したため、新
規に採用されましたが、家業が米屋
ということもあり、農家相手の肥料
販売等をしていたことと、当時から
趣味の野球、ソフトボール、バドミ
ントン、スキー等に積極的に参加し
ていたので、農業の経験はなくても
それなりに顔見知りの方が多かった
ため、組合員にはすぐに覚えてもら
いました。

反面、仕事はなかなか覚えられな
いと弱気になり、途方に暮れたもの
です。

しかし、合併予定の各土地改良区
や周囲の役場職員の後押しを得て、
また、当時の役員の指導もあって何
とか業務をこなすことができ、合併
に持ち込むことができたと思いま
す。

この間に培った人脈は、今も公
私両面にわたって支えになってお
り、子羊のような私も、羊の皮
を被ったブタとまで言われるようにな
ってしまいました。

今も私の身に襲いかかる痛風の痛
みに怯えながら執筆をいたしております
ますが、会員の皆様も太りすぎには

十分注意しましょう！

これからは中堅職員として、農業
農村・土地改良ロードを邁進し、先
輩から頼りにされ、後輩からは尊敬
されるような「できるブタ」になり
たいです。

会員の皆様、NN事業並びに土地
改良事業団体に降りかかる火の粉、
暗雲を振り払い、明るい未来へ向け、
強い気持ちで前進していきましょ
う。



勤続20年を迎えて

水土里ネット福島

桃谷孝俊

平成4年度に福島県土地改良事業
団体連合会へ就職してから早20年が
経ちました。その間、いろんな経験
を積ませて頂きました。

最初に、私自身、土地連と言った
ら圃場整備というイメージがあった
こともあり、換地3課から技術3課
へ異動した時に圃場整備の何かの業
務に携わるのかなと思いました。聞
くとメインの業務が農業集落排水事
業で、要するに農業振興地域にお
いて下水処理が出来る施設を建設し
農村の生活環境の改善を目的として
いるもので、大分変化球的な事業だ
なと当時は思いました。しかしなが
ら少し考えれば農業従事者に貢献し
ていることになるのでピン打ち作業
から1つずつ積み重ねました。

平成6、7年度には(社)日本農業集

落排水協会へ出向させて頂き、他県
の土地連職員との交流や都暮らしを
体験させて頂きました。蛇足ですが
この期間に大きな出来事があり、1
つは当時高島平から御成門まで地下
鉄通勤していたのですが、サリン事
件でニアミスし、もう一つが阪神淡
路大震災で兵庫県入りしていたこ
と、幸い当日は日本海側の宿に泊
まっていた午前中まで情報が無いた
めに気づかず、電話連絡を受けてか
ら、事の重大さが分かった次第で、
2つ共、方々に心配をかけてしまっ
たこと有難いと今でも思っておりま
す。

次に集落排水第1課から農地建設
課へ異動した時はより土地改良らし
い事業に携われると思いました。平
成18年度から平成22年度まで主に基
幹水利施設技術者育成支援事業の業
務に従事しました。ここでは、協力
業者の手を借りながら、排水機場、
揚水機場、頭首工の施設を定期的
に指導、援助しました。今思うとこの
事業を活用する施設管理団体は管理
レベルが元々高く、エコ運転はどう
やるかとか、フル運転時の排水路水
位調整方法とか、すぐに演習出来そ
うにない事が多く苦労した覚えがあ
ります。また全体的に稼働年数が30

年以上経過しているものが多く、県
営事業で築造しているため補修、改
修するには大掛かりとなり、事業化
も時間が掛かる事もあるので無理な
運転を避ける事や注意点を意見交換
しながら正常な運転をしてもらうよ
う指導援助業務に従事させて頂きま
した。

最後に東日本大震災が発生してか
ら翌月の4日に南相馬市から新地町
にかけて設置してある排水機場の調
査を県の方々と共に行ったことで
す。これは、想定外の津波で破壊さ
れたとはいえ、想像以上の惨事に唾
然としたこと、排水機場の上流の圃
場は大半が湛水し、皮肉にも排水機
場の効果を実感したこと。相双地
方の圃場整備は30年近く逆戻りし
た。と言われているようにまた一
から整備するところが多いと思いま
すが私自身貢献できるような精進して
いきたいと思えます。



第36回全国土地改良大会(北海道大会)開催

み・ど・りかがやく北の大地 明日を担う土地改良

～食と農業・農村の未来を確かなものに～



第36回全国土地改良大会は、平成25年9月11日(水)午後1時30分から、北海道札幌市・北海道立総合体育センター「北海きたえ〜る」において開催された。

大会テーマ「水・土・里かがやく北の大地 明日を担う土地改良～食と農業・農村の未来を確かなものに～」の下、約3,000名の農業農村整備に携わる全国の関係者が集い、「農業・農村の重要性」と、それを支える「農業農村整備事業の役割」を広く国民にアピールするとともに、新たな農業の展開方向に即して、改めて農業農村整備の役割・使命の重要性を再認識し、関係者の総力をあげて

農業・農村をさらに発展させることを確認しあった。

式典では、水土里ネット北海道の眞野会長が開催地を代表し、「北海道農業の発展は、まさに、土地改良の歴史的成果そのもの。“明日を担う土地改良”の意味するものをかみしめ、食と農業農村の未来を確かなものにしていくことが重大な使命と認識し、我が国の農業・農村の礎である『水土里』を守り、さらに発展させ、次世代に引き継いでいく」と挨拶した。

続いて、全国水土里ネット（水土里ネット京都）の野中会長が主催者を代表し、「この北の大地は、厳しい条件下での開拓の賜であり、先人たちの功績と努力に敬意を表する。農業を取り巻く国内外の情勢は厳しいが、政府が目指す攻めの農業の実現に向け、大区画化など土地改良事業の実施を通じて積極的に貢献していく覚悟だ」と述べ、政府に対して概算要求での農業農村整備関係予算の満額確保を求めた。

このあと行われた土地改良事業功績者表彰では、農林水産大臣賞6名、農村振興局長表彰16名、全国土地改良事業団体連合会会長表彰44名が表彰された。本県からは、渡辺一成南相馬・鹿島町土地改良区理事長が「農林水産大臣賞」を、草野弘前小川江筋土地改良区理事長が「全土連会長賞」を受賞された。

農林水産省農村振興局次長小林祐一氏より基調講演があり、その後東日本大震災被災地からの報告で、岩手・宮城・福島県の農地再生の取り組みの報告が行われた。本県からは、昨年引き続き、渡辺一成南相馬・鹿島町土地改良区理事長が「津波と放射能にまげねえど!」と題し、報告を行った。



表彰式

東日本大震災被災地からの報告「津波と放射能にまげねえど！」

- ・原発から20km圏内は震災当時とあまり変わらず、抜本的に見直す必要がある。
- ・放射能汚染対策として、農地の除染では表土削り取り、反転耕、放射性セシウムの作物への吸収抑制剤の活用を実施。また、ため池等汚染拡散防止のため実証事業に取り組む。
- ・アンケートによると、約7割の農家が経営休止の意向。
- ・国が示す大規模経営・法人化、6次産業化の推進、再生可能エネルギーの推進をめざしたい。
- ・風評問題は「安全性」を確認できる体制によってのみ克服でき、今年は例年通りの状況にもどりつつある。
- ・放射性セシウムの野菜への移行に問題のないタマネギ、ネギ栽培の大規模化も進める。
- ・新たな展開として、太陽光発電と農業生産を結びつけつける南相馬ソーラー・アグリパーク（太陽光発電所と植物工場）や太陽光発電グリーンハウス（農業用ハウスの上にパネル設置）を建設した。

大会宣言の後、水土里ネット北海道より次期開催県である水土里ネット山梨に大会旗が引き継がれ、水土里ネット山梨の会長より挨拶があった。（次回の第37回全国土地改良大会山梨大会は平成26年10月30日開催予定）

土地改良事業功績者



農林水産大臣賞受賞
渡辺一成氏

南相馬・鹿島町土地改良区理事長



全土連会長賞受賞
草野弘氏

前磐城小川江筋土地改良区理事長



支部だより

県中支部

水土里ネット福島

新田 能子

会員の皆様には日頃より大変お世話になっております。新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、県中支部において、平成25年10月3日に農業農村整備事業県外視察研修を実施致しました。今年初の試みで日帰り研修ということもあり支部長をはじめ、例年より多くの総勢30名の会員の方々にご参加頂きました。

日帰りという短い時間の中で、今年の視察は発電事業、6次化産業、耕作放棄地の活用と、それぞれ違った取り組みをしている3箇所を見て廻りましたので紹介します。

①那須野ヶ原用水ウオーターパーク

(栃木県那須塩原市)

・遊歩道沿いにある水路の小水力

発電、太陽光、風量発電について

・設置までの経緯、維持管理、今後の課題について

②道の駅うつのみや ろまんちっく村 (栃木県宇都宮市)

・道の駅での6次化産業導入経緯について

③やみぞあづまっぺ協議会 (栃木県大田原市)

・施設等の維持管理について

・耕作放棄地を利用した紅茶畑について

・協議会立ち上げまでの経緯

・取り組みに対する声、展望

研修に参加頂きました会員の方の感想をご紹介します。

視察研修に参加して

郡山市東部土地改良区

渡邊 陽介

平成25年10月3日、県土連県中

支部主催で栃木県那須野ヶ原用水ウオーターパーク、道の駅うつのみや ろまんちっく村、大田原市須賀川地区のやみぞあづまっぺ協議会での研修に参加いたしました。

那須野ヶ原用水ウオーターパークでは、東日本大震災以降注目されている再生可能エネルギーについて、農業用水路に水車を設置して発電をする方法や問題、設置して維持管理

にかかる費用など、施設職員の方よりお話を伺い、考える以上に費用面で負担があることに驚きました。この施設では採算を考えず、試験的に水力・風力・太陽光発電のデータを

集めて未来への投資をしているとのこと、今後は導入費用・維持管理費用など下がる傾向にあるとは思いますが、環境に配慮した形でエネルギーを生み出していくことの必要性

と将来性を各地域においても検討していくことが大切になると感じました。

道の駅うつのみや ろまんちっく村では46haの広大な土地に、農産物直売所、体験農場でとれた食材が楽しめる飲食店、温泉やプール、宿泊施設も完備され、食と農・自然と癒やしのテーマパークのようでありました。ここでは「農と食」による「お・

も・て・な・し」を第一に運営されており、平日でありましたがたくさんの方がおられ、休日の賑わいが想像できました。このような形にすぐ出来るものではありませんが、地域と一体となった運営は農村地域が目指す一つの姿であると大変参考になりました。

大田原市のやみぞあづまっぺ協議会では、旧黒羽町で江戸時代から栽培されてきた「くろばね茶」を再興させ、地域興しに取り組んでいました。

耕作放棄地を再生し、地元名産品を地域一帯で盛り上げていくという取り組みは素晴らしいものでした。興味を持っている人が自主的に集まる、「この指止まれ方式」で女性

性が中心となり行政や補助金に頼らず自らの知恵とアイデアで勉強し、新しい商品を生み出そうという一人一人の姿勢に、自身もそうあるべきと思いました。

それぞれ地域条件は違いますが、生み出す事、広げていく事、守る事など、この研修を通して感じ学んだもので少しでも地域活性の力になればと思います。

県土連県中支部主催 の研修会に参加して

安積疏水土地改良区

細谷 宣明

平成25年10月3日、一日という日程で栃木県那須野ヶ原用水ウォーターパーク、道の駅うつのみやらまんちつく村、大田原市須賀川地区やみぞあづまつ協議会の三地区の視察研修に参加しました。

改良区でも平成16年より小水力発電を運用しているので、那須の発電視察は以前から興味がありました。施設職員の方より発電方法の違いによる発電量の差、設置に於ける問題点等、今後の発電運営に役立つ話を聞かせて頂きました。意外なことにコスト・発電量において水車による発電が安定している趣旨を聞いて驚きました。しかしまだ運用から日が浅いので、長期間をかけてデータを収集していくそうです。

次の道の駅では開園後、一度経営不振になり外部に経営を委託し、斬新な運営構造改革から収支が大幅に改善され経営が好転、「食と農」のおもてなしを理念とし地元と一体になつて経営している施設で、この経営方法は農業を考える上で一つの形

と言えます。農と密接に関わりある改良区職員としても大変参考になりました。

大田原市須賀川地区では、会が設立されたばかりではありませんが、地区の方々が耕作放棄地を再生・地元特産品を復興させようとする熱意は素晴らしいものでした。

何よりその原動力は地区の女性の方々に、新しい商品を生み出そうと自ら専門店へ行き学ぶという姿勢はなかなか真似出来るものではありません。

研修に参加し、其々違う取り組みがありますが、各施設関係者と意見を交換が出来、未来に残そう、繋げようとする考えは同じであり、大変有意義でありました。今回学び感じたことを生かし、地域活性に少しでも力になればと思います。



それぞれ違う立地や規模、条件の中で、地域活性に向けて活動していく行動力や向上心、アイデアはどれも同じくとても活気あるものだと思います。今回の研修の中に今後の復興や地域活性等皆様のお役に立てるヒントが少しでもあれば幸いです。これからも会員の皆様にいろいろ

りと助けていただきながら活動して参りたいと思いますので、よろしく願いいたします。

皆様良い1年をお過ごしください。

県南支部

水士里ネット福島

塩田 有子

【はじめに】

「石の上にも三年」と言えば、冷たい石の上でも三年座り続ければ温まるとの意味です。

辛くても諦めずに我慢すればやがて報われるとの例えに使われます。

「見せましょう、野球の底力を。見せましょう、野球選手の底力を。見せましょう、野球ファンの底力を。ともに頑張ろう東北！支え合おうニッポン！」

震災直後に行われた復興支援の慈善試合で、選手会長である楽天イーグルスの嶋選手が宣誓した言葉は多くの人の胸を打ったことと思います。決して諦めてはいけない、希望を持つて歩めば必ず道は開ける、奇跡なんかではない、本当の強さを日本シリーズで魅せた選手達の勇姿は物語り、日本中に大きな感動と勇氣

を与えてくれました。

今度は私達が「見せましょう、『ふくしま』の底力を。復興に向かって絶対に乗り越えましょう、この時を。」

【職連協研修会】

八月二十三日(金)

場所 サンルート白河

出席人数 二十一名

①132条に基づく土地改良運営について

福島県農林事務所企画部

指導調整課主事

川田 恵理子氏

土地改良区の検査には、定期検査と特別検査があり、組織及び運営、事業や会計経理に関する事項について指導が行われます。

指摘事項 (H. 25県南)

- 1. 会計経理 10件
- 2. 定款・諸規定 8件
- 3. 事業 5件
- 4. 地区及び組合員 2件
- 5. 議決機関 2件
- 6. 役員 2件

大まかに分類すると、

- ・ 賦課金徴収関係書簿に関すること
 - ・ 未収賦課金について
 - ・ 財産目録について
- と、県内の統計を見ても会計経理に
関することの指摘件数が多いよう
です。

これらの指摘事項を受け、内部け
ん制機能の強化を図ると共に、役職
員相互に職務を再認識し適正な業務
運営に反映させていく事が検査の主
目的であることから、検査後の書類
等の整備を的確に処理されることが
求められているのだと思います。

②星空の世界

～星のソムリエ～

矢吹原土地改良区事務局長

鈴木 禎一氏

昨年一月に民報新聞に目を通して
いると、「星のソムリエ認定」の見
出しと認定を受ける鈴木さんの写真
掲載に目を留めました。

星のソムリエは「星空案内人」の
愛称で、天文学と市民の橋渡し役を
しようと、山形大の研究者とNPO
法人が平成十九年に創設したそう
です。

資格を取得するには多岐にわたる
講座があり、天体望遠鏡の使い方や
星空の見方、星空案内のポイントと

幅広い知識を要されます。

鈴木さんは、理科離れや科学に対
する興味の低下を懸念しており、星
空は科学だけでなく、心の安らぎを
与えるヒーリング効果もあることか
ら、今後は多くの人々に宇宙や天文
に興味を持ってもらいたいと話され
ていました。

③維持管理計画書の作成ポイントに
ついて

矢吹原土地改良区主事

酒井 勇司氏

初めての講演で、緊張している様
子でしたが、とても丁寧に、時にユー
モアを交えた発表となりました。
資料作成にあたっては、幾度も修
正を試み、妥協しない姿勢には背筋
を正される思いをしました。

1. 認可申請と添付書類

・ 作成要領について

田園環境整備マスタープラン援
用

・ ホームページから最新情報を入
手・環境との調和への配慮は関
係市町村のマスタープランの理
念を反映

2. 公告書の掲示

(報告)

3. 同意書

4. 土地改良事業同意書名簿地区集

計表

5. 未同意証明書

6. 土地改良事業計画書作成に伴う
意見書

7. 事業費の細目及び資金計画書面

8. 業務の執行及び会計経理に関す
る事項

計画書作成に当たっては、管理施
設の洗い出し、計画書作成、同意徴
集手続き等、さまざまな作業が必要
となってくるため、短期間で解決問
題はありません。

しかし、スケジュールを作成し策
定に向けた作業を少しでも進めるこ
とで前進し、土地改良区等検査にお
いても「前回から変わっていない。」
との指摘もさけられるのではないで
しょうか。

【視察研修】

十月二十四(木)～二十五(金)

出席人数 二十一名

①信濃川沿岸土地改良区

平成十六年十月に起きた中越地震
から九年、復旧と復興の推進で活用
した有益な事業の紹介がありまし
た。

1. 農地災害関連区画整備事業

(被災原因の除去(河川の氾濫等))

するため被災農地と未被災農地の区
画整備を行い農業経営の安定を図

り、再発防止した。

2. 基金事業

・ (財)新潟県中越大震災復興基金
行政が行う各種取り組みを補完
する内容を公募で提案し事業化
・ 復興基金

(農林水産業対策事業)

国や県の災害復旧事業に該当しな
い小規模農地等の復旧、整備、水田
の地力回復など事業化

②西蒲原土地改良区

県南地域のほ場整備率は74・1%
となっており、県全体の整備率70・
3%をやや上回っていますが、市町
村別になると50%に満たない地区も
あり、小さな区画などの整備が進ん
でいない状況にあります。

西蒲原土地改良区では、ほ場整備
の大区画化を行い、地下灌漑暗渠排
水を導入することにより、地下水位
の調整も可能となり、作物に適した
地下水位で作物が栽培できる効率的
な農業展開が行われていました。

ほ場整備の実施については、営農
委員を立ち上げ、地域農業の担い手
や今後地域の農業をどうするか話し
合い集積計画を作成し、進めていく
ので、時間もかかり大変な作業では
ありますが、将来の地域農業が発展
するための体制を整える良いきっかけ

けとなり、効率的で安定した農業経営の地盤でもあると思いました。

【むすびに】

銀河ステーションと云う声と共に、まばゆい光に包まれた小さな列車でジヨバンニとカムパネルラの銀河鉄道の旅が始まる。

宮沢賢治「銀河鉄道の夜」に描かれた宇宙の世界である。

一九六一年に人類で初めて宇宙に行ったロシア宇宙飛行士ガガーリン。それから五十二年が経ち、昨年十一月ロシアのソユーズ宇宙船が打ち上げられ、日本人として初めて船長を務めることとなった若田光一さんが宇宙へ旅立ちました。

宇宙飛行士は滞在中に隕石がぶつかって空気が漏れたり、火災が起きたりした場合には、ステーションの外は空気がないので生命に危険が及ぶことも想定されます。

そのような場合に、船長は的確な判断をして飛行士全員の安全確保する責任がとて重い任務であるのです。

滞在する国際宇宙ステーション（ISS）とは、サッカー場ほどの大きさの有人宇宙施設で、そこで自らを実験台とした医学実験など、さまざまな科学実験を行います。

例えば、重力が非常に小さいステーションでは筋力が低下するの
で、小型で使いやすい機器を使用し、筋肉に電気刺激を与えながら運動する方法で、効率的に筋肉を維持するかを確かめて高齢者やリハビリの必要な人への応用の道を探ったりする医療の開発に携わる任務もあります。

このように、宇宙開発には明確な目的があり、人々に役立つモノを開発提供する重要な役割を担っており、通信や気象、GPSといった現在の便利で快適な生活は宇宙開発により出来たモノである事が分かります。

宇宙でなければ出来ないこと。野球でなければ見せられない底力。場所や職種が違っても、誰かを思い全力を尽くす。

心の強さは誰かを思いやる気持ちから生まれるのかもしれない。誰かの「ために」より誰かを「思い」行動出来るような人間になれたら素敵ですね。

まだまだ風評被害で県産の農産物を警戒する風潮がありますが、モニタリング検査は厳密に行われていきます。

私達、県民はもつと安全性に自信

を持ち、このような時にこそ地産地消に力を入れるべきだと思います。どうか、ふくしまを『思い』、一つでも福島産の農産物を手に取ってもらいたいと願います。

自信とは自分の能力や技量で物事

会津支部

水土里ネット福島

永嶋千代子

《心に彩り》

土地改良と共に39年

新年あけましておめでとうございます。土地改良と共に歩み39年という時間が経ち、間もなく定年を迎えようとしています。

近頃では眠りの浅い日が続き、目を閉じると、心に残るいろいろな思い出が脳裏をかすめます。

私が土地改良に携わることとなった経緯は、昭和50年4月高郷村土地改良区に採用になったことから、土地改良区の用語も解らないまま、高郷村の各地区で、ほ場整備事業や

が達成できるかどうかの見通しのことです。

そして見通しを立てるのは想像力です。

自信のない人に共通しているのは想像力に乏しいことです。

ジョセフ・マフィ

揚水機場の補改修工事が行なわれる中、各集落に向いての説明会、事業申請のため県当局との打合せ等、何もかもが初めての仕事でした。「本当に私にこの仕事が終わるのだろうか・・。」と不安になった時、組合員の皆さんや土地連の方々等多くの人に温かいご指導を頂きながら努めてまいりました。

私が高郷村土地改良区に勤務して14年目の平成元年霜月、支部職員の方が亡くなりました。そのことを受けて、当時会津支部長であった北会津村長山内辰夫氏(故人)から、「高郷村から会津若松間の通勤は遠くて大変だろうが土地連会津支部の事務局として手伝ってもらえないか。」とのお話がありました。私は、支部業務を考えた時、会津全域の市町村・土地改良区が会員となるので、それらを一円に任務することについて、

「会員の皆さんにご迷惑をかけてしまうのではないか・・・。」と思いましたが、高郷村長齋藤文康氏（高郷村土地改良区理事長）の後押しとお勧めもあり引き受けることにしました。こうして、翌平成2年1月1日付会津支部職員として拝命を頂いたことで引き続き土地改良に関わることになりました。

当時の会津支部事務所は、現会津農林事務所内にあり、各地区で盛んに土地改良事業が行われていた時で、市町村・土地改良区の役職員の皆さんが支部に立ち寄り、顔を出して下さり、声を掛けて頂いたことが懐かしく思い出されます。

支部の業務研修のテーマは、土地改良事業の積算と施工についてが主だったため、会津農林事務所の皆さんにはその都度、適切な説明とご指導を頂き、事無く開催できました。

県外研修では、定員に満たない時などは、各会員に再度連絡して無理にも参加をお願いしたこともありましたが、皆さんに快くご協力を頂いたおかげで何とか実施できるようにになりました。

また、業務の合間には市町村、土地改良区へ出向いて、お互いに顔を合わせて話をするよう努めてまいり

ました。

今、定年を迎えるにあたり、多くの皆さんに支えられ、ご指導・ご協力を願い、泣いたり笑ったりと思いつつ、出深い39年間であり、私にとつて、人として、人間として大きく成長し多くの友を得ることができた貴重な《とき》であったと心から感謝しております。

土地改良事業を行う中で、水はとても大切な資源です。タイ語では、「川」のことを「メーナム」と発音し、「メー」は母、「ナム」は水を意味し、母なる水を「川」と呼ぶそうです。土地改良の役割とは、このメーナム「母なる水」と「自然環境」を守ることの大切さを後世に伝えてゆくことだと思えます。

土地改良を通し、水・土・里の大切さを改めて実感した私は、10年程前より耕作放棄地や遊休農地等を借り受けて「愛の花園」と名づけ、花や草木を植栽しております。環境を支え守つてゆきたいとの思いから手がけております。今では多くの方々を訪れて下さるようになりました。これも、偏に、水と土と人との土地改良に関わってきたことの《あかし》のような気がします。これからの人生《心に彩り》を忘れることな



く、自然の中で楽しむ日々を過ごしたいと考えております。39年間、本当にありがとうございました。

会津方部土地改良区の円滑な事業推進と初期職員（勤務年数十年前後）の資質向上を図るため、第五回水土里ネット初期職員研修会を平成二十五年十二月十日（火）～十一日（水）に開催しました。講師の方々や参加された方々の感想を紹介します。

第5回水土里ネット初期職員研修会

日時 平成25年12月10日（火）～11日（水）
場所 会津若松市東山町

1日目

(1) 課題提起

- ① ゲリラ豪雨への備えと対応について
会津農林事務所農村整備部主査(キャップ) 赤塚 康志氏
- ② ほ場整備事業の受益者ニーズについて
会津農林事務所農村整備部主査 小口 高博氏
会津農林事務所農村整備部主査 荒川めぐみ氏

(2) 講演

危機管理について
会津農林事務所企画部長 山内 冬彦氏

2日目

講演

- 農業農村整備事業の新規制度並びに拡充について
会津農林事務所農村整備部農地計画課長 佐藤 利勝氏
- ふくしま農林水産業新生プランについて
会津農林事務所地域農林企画課主査(キャップ) 宗方 宏之氏

研修会に参加して

会津農林事務所

農村整備部農村整備課

主査 小口 高博

研修会当日は、柳津町土地改良区の小島主任からはこれまでの経験を踏まえた大変参考になるお話を頂き、また会津中央土地改良区の佐藤主査には適切な助言進行をして頂きました。

当日は立派な会場を目の当たりにし、緊張度が増して汗がしたり落ち、また、私自身反省点多々ありましたが、無事に終えることができました。

今回研修会に参加しまして、研修会が意見交換を通じた交流など大変有意義な場であるように感じました。私も業務の都合上一日だけの参加でしたがいろいろと学ぶことができました。

最後に、ご発言、ご助言を頂きました土地改良区の方々や研修会を開催された主催者の方々に深く感謝を申し上げます。

研修会に参加して

会津農林事務所

農村整備部農村整備課

主査 赤塚 康志

この度、水土里ネット会津・南会津支部主催の「初期職員研修会」に参加させていただきました。

私は「ゲリラ豪雨への備えと対応について」という課題で、参加された方と意見交換をさせていただきました。なかなか難しい課題でしたので、活発な意見交換ができるのかという不安がありました。ところが、その不安は杞憂となり、おかげさまで大変活発な意見交換ができました。

また、参加された方の日頃の業務や問題点なども知ることができ、今後の業務に参考となる点が多い有意義な時間でした。

このような研修会は同じ業務に携わる方達にとって、大変役に立つ研修会だと思います。特に小人数の土地改良区職員の方や、職員になって日が浅い方にとっては、人脈というネットワークを構築できる良い機会だと思っております。

最後になりますが、助言者及び助言進行者として大役を務められた山

都町土地改良区の遠藤事務局長、会津北部土地改良区の遠藤さん、また、主催者の方々には大変お世話になりました。この場をお借りして感謝申し上げます。

会津水土里ネット 初期職員研修会に 参加して

会津宮川土地改良区

板橋 吉彦

会津宮川土地改良区の職員となつて4年目になりますが、この研修会には毎年参加させて頂いています。

今回は、初期職員研修会の事前打合せにも参加させていただき、この研修会を行ううまでには、本当に多くの方々のご協力によって成立していることを改めて認識させられました。

参加した過去3回の研修会においては、講師の皆様よりいただく講演の内容を、理解することで精いっぱいでしたが、今回の研修会では、初めて司会進行を務め、今までにない貴重な経験をさせていただきました。緊張により、お聞き苦しい部分も多々あったかとは思いますが、皆様のご協力により、何とか2日間司

会を務めることができました。本当にありがとうございます。今後も、このような貴重な場を提供していただいていることに対して、感謝する気持ちを忘れず、少しでも多くの知識を吸収して職場へ持ち帰り、日々の業務に生かしていけるように、積極的に参加していきたいと思えます。

そして、この研修会は、採用されてから十年程度までの職員を対象にしており、同時期に土地改良区の職員になった方々とお会いできる数少ない場でもあります。多くの皆様と意見を交わしながら、親睦を深め、各土地改良区の情報を共有し、土地改良区をよりよいものにしていくと切磋琢磨する仲間になっていくらと思えます。

第5回会津水土里ネット 初期職員研修会へ の参加について

水土里ネット福島

宮田 亮

この研修会は業務で触れる専門用語への理解度に懸念を抱いた当時の先輩方が発起人となって始まった行事であり、土地改良事業に関する専門用語とその意味の習得によって関

係組織や農家の方々との情報交換の円滑化に寄与することが狙いとなっているようです。また、私にとつては自らが携わる業務内容を農村振興という巨視的な視点から捉え直す契機ともなり、その役割を再認識することにも繋がりました。さらには参加者された方の中には近い年齢層の方も多く、時間的な制約はあったものの、業務や私生活における問題点や関心事への対話を通して横の繋がりを形成できたことは、協働して事業を推進する機会が訪れた際には、業務という緊張状態にある中にも安心を感じ、多くの部分で助けられることになるかと思えます。

研修会で取り上げられた講義内容を大別すると土地改良事業の枠組みとそれを実現する様々な事業の概要、農業・農村の分野に局限した自然災害への対応と災害復旧、農政の側面から多様な農村資源の利活用や高付加価値生産による経済システムの強化の三つになります。

土地改良事業に関する講義の中では複数の方から事業の前後における住民間の合意形成の難しさとその重要性が述べられました。ほ場整備のみならず経営体の強化に向けた組織的な取り組みを行う際には利害関係

者の意見調整の場に遭遇する事態は少なくはないとされ、集落営農や六次産業化といった主体間連携が求められる今日の政策の趨勢においてはこうした課題がより顕在化するのはないかと思われます。

自然災害を主とする危機管理への対応では精緻な現状把握や蓄積されたデータに基づく将来予測によって地域や現場の条件に則した個別の対応策を講ずることが前提となります。一方で危機的な状況を目前にし、対応を迫られた場合は、マニュアル化された対応に固執し、硬直的な判断に囚われることなく、こうした指針には限界があることを踏まえ、現状を見据えた上で常識的な範囲での対応が求められるという判断の難しさを感じました。仮に当事者になったと仮定した場合、適切な対応の成否は想定外とされる事態への想定の意味化に委ねられる部分が大きいのではないかと推察されます。

こうした二つの課題から汲み取れる示唆としてハードの運営に関わる制度への理解を併せて、合意を仲介するファシリテーターのような役割や危機的な状況を想定するといったソフトの部分を軽視しないことが円滑な事業の推進に結実する要因の一

つではないかと思えます。最後になりますが、講師を担当して頂いた会津農林事務所、土地改良区の諸先輩方から頂いた実践に裏付けられた助言、各テーマに沿って作

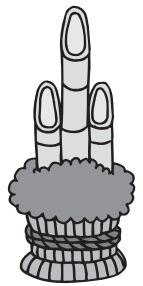
成された資料は業務を推進するうえで、問題に直面した際には解決に向けた有益な指針となります。示唆に富む研修会を開催して頂いたことに記して感謝の意を表します。



2013. 12. 11



年男・年女



年男 —今年の抱負—

高郷土地改良区

後藤 学

新年の抱負という寄稿依頼をいただきまして何を抱負にしようか迷っておりますが、3度目の干支をむかえ今年で36歳になります。30歳を過ぎた頃から年を重ねるスピードが2倍速くらいに感じる気がし、よく「年を取ると毎年1年が過ぎていくのが早い」なんてことを聞いて、まさかと思っていたのですが改めて実感しているところです。また、体力的にも20代の頃よりも落ちてきているのがはつきりと判りますし、体型も太り？小太り？気味なのでケアを怠らないようにしていきたいところであります。

そんな両親も60代後半になっており、毎年農繁期時には手伝いをしておりませんが農耕機械の操作などはまだ身につけておらず、収穫までのイロハを教えてもらいながら作業をしているので、まず、今年は、主体的に農業に従事出来るようにステップアップを図りたいと思います。自らが耕作の主体となれば、耕作を営む目線と土地改良区職員としての両面で各種補助事業などのプランを多角的に見ることができ、現在の仕事へ生かすことができるからです。また、地域の営農座談会などで率先してコミュニケーションを図っていき話に耳を傾け地域に貢献できるようにしていきたいと存じます。これまで家事農業に深く関わらずにきてしまったのが後悔であるため、今年こそはという気持ちでありますし、冒頭でもお話ししたように体が鈍っているので、体を動かし（暴飲暴食を控え）健康増進にも努めていきたいので、特にやり遂げたいです。

年女

せめて、気持ちだけは。

小田高原土地改良区

星 友子

最後になります。私の所属している土地改良区は県内一小さい改良区で組合員数は五十名を切り、面積も八十ヘクタール程、揚水機で河川からポンプアップして用水を確保しているため、メンテナンスや、今後電気料金値上げになると、組合員の方々の負担がますます増えることになるなど、様々な問題をかかえています。農業情勢もいろいろ変化する中、何年度になるか数えるのも怖いような年女を迎えることとなる私は、土地改良区の仕事をするのは、後わずかなるでしょうが、組合員さんと頑張っていこうと思います。

自分がそれまで学んできたこと、経験してきたことが、まるで役に立たない畑違いの職業であった土地改良区の仕事をやるようになって早いもので十七年の歳月がながれまして。それまで事務員のいなかった改良区でもあったことから、喜多方市役所の農林課内に机を用意してもらい、当初、何もわからなかった私を農林課の職員の方々が、事務指導を下さり、「県営土地改良総合整備事業」に、無事とり組むことができました。ワープロから、パソコンへ移り変わりの時だったので、若い職員の方には毎日の様に、おばさんからの質問攻めで、迷惑をかけたことと思います。ですが、現在は自宅にいて、やつ

ております。私の所属している土地改良区は県内一小さい改良区で組合員数は五十名を切り、面積も八十ヘクタール程、揚水機で河川からポンプアップして用水を確保しているため、メンテナンスや、今後電気料金値上げになると、組合員の方々の負担がますます増えることになるなど、様々な問題をかかえています。農業情勢もいろいろ変化する中、何年度になるか数えるのも怖いような年女を迎えることとなる私は、土地改良区の仕事をするのは、後わずかなるでしょうが、組合員さんと頑張っていこうと思います。私生活においては、孫が五人になり、回りの人からは、しっかりと、〇〇ちゃんのおばあちゃんと呼ばれ、抵抗を感じながらも笑顔で対応しています。数年前には綾小路きみまろさんの言葉に大声で笑っていたのが、今では、それは私のことかもと納得することも、少しずつ増えてきたり、老眼鏡を捜しまわってからじゃないと事が進まなかったりすることも多くなってきましたが、今後の目標は、今、中途半端になっている手芸を時間の使い方を有効にして、完成させ、新しいものにも挑戦し、今で

も続いている親子ほどの差のある友人達とのつきあいにも積極的に参加して、せめて気持ちだけでも若さを保てればいいなと改めて、年女を迎えるにあたり思う次第です。

年男

矢吹原土地改良区

鈴木禎一

昨年11月のこと。出勤をして自分の机の上を見ると、「むつみ」の原稿依頼の書面がありました。「何だろう」と思いつつ見てみると、年

男女「コーナー」への寄稿とのこと：永遠の30歳で通している私に4度目の年男であることを通告するシヨッキング書面でした。少々複雑な心境となりましたが、それは大人げない八つ当たり：これは自分を見つめなおす良い機会であると、気を取り直して原稿を書くことにしました。

さて、まずは4度目の年男としての実感です。「むつみ」の「年男女」のコーナーで諸先輩も述べていたように、まずは若い自分（気持ち）と老いた自分（身体）のギャップが激しくなるというのを実感していま

す。特にスポーツをしている時。私の場合ソフボールですが、「今まではできたのに、どうして…。」ということが著しく起こるようになります。ここで自制心を保てないと漏れなく故障者リスト入り、となります。なんとも寂しいことですが、現実とは厳しいものです。しかも、去年の健康診断の結果は、赤字で書かれた項目が増えているし…。

と、こんなことばかり書いています。気分がネガティブになりますので楽しい話にもつていきましょう…。そうなる趣味の話ですね。年男には関係ないですけど…。

一昨年に「星空案内人」星のソムリエ」という資格をとり、ぼつぼつと活動をしています。「星空案内人って何？」と思われる方もいらつしゃると思いますが、簡単に言えば、ワインを選ぶソムリエのように、星の世界の楽しさをみんなに紹介する人、ということ。星のことは「難しいそうだから」と言われることも多いのですが、そんなことはありません。星の世界は化学、物理、数学、天文など自然科学はもちろんのこと、文学、音楽、民俗、映画などと社会科学まで幅広く関係しています。それだけに個人の好みでいろん

なアプローチができるのです。私は文科系の人ですから、苦手な自然科学のほうはほどほどにして文化面でのアプローチを専門にしています。

例えば月の世界。かぐや姫はどうですか？ジブリで映画もやっていました。けっして難しくありません。

月と日本人の関係を示す深い星の世界の話なんです。ちなみに土地改良区の水路をぜんぶ合わせると地球10周分。これは地球から月までの距離とほぼ同じなんです。（※月まで平均距離は約38万4千km、近点で約35万6千km、遠点で約40万6千km）

この「むつみ」が皆さんのお手元に届くころは冬の星座が真つ盛りです。オリオン座を見つけることができればそこから6つの星座と7つの一等星がすぐにわかります。一年で一番華やかな星空です。うーん、星と文化というのはロマンあふれる大人ならではの趣味ですね。4度目の年男ぐらい歳を重ねると趣味も深みを増していきます。（やつと4度目の年男の自慢ができました。自画自賛か…）

水、土、里、自然を愛する土地改良区に壮大な星の世界も加えてみると楽しいのではと思いい、21創造運動として「田んぼで星空観賞会はどう

よ！」と提案してみたことがあるのですが、満場一致で却下。トホホです。星空案内人としてもつとがんばらねば。なんだか取り留めのない話になってしまいました。がなにとぞご容赦を。最後に今年の抱負を挙げてまとめます。

今年4度目の年男。もうすぐ半世紀の歴史を歩むことになりましたので、そろそろ永遠の30歳を卒業し、ナイスミドルを目指していきたいと思えます。そして、もつと元気な土地改良区、もつと楽しい農業を目指してがんばります。今年もよろしくお祈りします。



年男

五回目の年男

東根堰土地改良区

石 神 正 雄

あけましておめでとうござい
ます。

今年も宜しくお願い致します。

わたしも、間もなく六十歳を迎え
ようとしています。

還暦、俺も還暦かあ。

大晦日のNHKの紅白歌合戦が終
わり、我が家恒例の初詣へ出かけよ
うと号令をかけた時、妻が何やら怪
しげな真っ赤な箱を抱えて来まし
た。

「お父さん、これに着替えて」と
言われたのです。何かと思いいながら
箱を開けたら、真っ赤な肌着でした。
しかもパンツまでです。

「俺、これ着るの？ 参ったなあ」
子供達も大笑い。結局、温かいので
正月中着ていました。

初詣は、例年同様の人盛りで、神
前まで四十分以上はかかりました。
その間、体の方は温かいのですが、
禿げ頭が幾ら何でも寒い、子供たち
にその事を話すと「お父さん、今日
初売りで帽子買ってやるから、赤で

いい？」又赤かいと思いいながらも嬉
しい気がしました。朝、子供達は早々
に勢い良く出かけ、ハンチング帽の
要望も虚しく見つからなかったよう
で、自分たちの福袋を片手に帰って
来ました。

4日には、N神社に厄払いに同級
生、長女、次男と4人で出かけ無事
お祓いをして頂きました。

5日は、ゴルフ仲間と新年会で、
後輩から思いがけない真っ赤なハン
チング帽のプレゼントを頂き、肌着
も真っ赤なものを着ていたことを話
すとみんなも大笑いで楽しく過ごし
てきました。これで還暦の魔除け
セツトが完了出来た事を感謝してお
ります。

最近、私達の同級生や同年代が集
まると年金の話、健康に関する話で
盛り上がりがあります。

テレビ番組も健康や病気の場面が
数多く取り組まれており、見るたび
にドキッとしています。昨年に12月
上旬には健康診断を行っており、ま
だ結果が届いていません。

健康番組を見るたびに、思い当た
る節があり、えっ、やばいかなと思
う時があり、その時から3日間くら
いは注意して、後はどこ吹く風、す
ぐに忘れてしまう。

さすがに若い時とは違って暴飲暴
食はできないけれど、まだまだ健康
管理にはあまい。

いつも家内から煙草をやめて、酒
はほどほどにと飲み会があるたびに
言われている。

両親とも高血圧の血統を持ち、わ
たしも当然降圧剤の薬を飲んでい
る。薬をのみのみ酒でよし、煙草で
よしでは体に良い訳がないけれど、
ストレスをためるよりはずっと良い
と自負している。

通院しているH先生に、
「先生、最近私は青汁を飲んでい
るんですよ。」

「それは、良い事ですね。」
「焼酎に割って飲んでるんです
よ。」

「それは駄目ですよ。それは絶対
駄目です。」

薬を酒と一緒に飲まないけれど、
青汁は薬では無いから、別に良いと
思うけどな？

若干仕事の話をしなないと。
当土地改良施設も県営事業で改

修してから、既に40年以上を経過
し、ゲート施設は適正化事業等で改
良を図って来ましたが、用水路コン
クリート本体にも経年劣化による摩
耗、打ち継ぎ目の破損、隧道面壁コ

ンクリートの崩落等が生じている現
状にあり、平成25年度において調査
設計事業を実施し、用水施設の機能
保全計画を基に事業計画を策定する
こととしております。平成26年度に
は、事業効果の実施を予定しており、
平成27年度には、新規事業の採択に
むけて準備をかさねているところで
あります。

私達の体も、土地改良施設同様に
ストックマネジメントしていかないと
崩落してからは遅いです。健康
には十分留意して今年も頑張って仕
事に励みましょう。



新会員のみなさんより

はじめまして

鮫川堰土地改良区
大平 理恵子

私は、平成25年4月から鮫川堰土地改良区にお世話になっております大平と申します。

私の前職は保育士をしていましたので全く違った職につき、土地改良区の仕事は何をするのか、用語さえ知らず、全く無知の状態でしたのでとても不安でした。

今、環境も一変し、自分の知らない知識を得る事は、とても興味があ

り、楽しく充実した毎日を送っております。

とは言え、実際に作業に携わるとなると、やはり慣れない事や分からない事だらけで焦ったり、動揺したりと日々努力しております。

私自身、農業の経験もなく、結婚をしてから田植えや稲刈りの時期に手伝う程度でしたので、組合員の方々とお話をする機会や電話での問い合わせも戸惑ってしまう事も多く、上司の方々をはじめ、皆様にはご迷惑をおかけしていると思えます。

採用され7ヶ月が過ぎ、徐々に仕事の流れも覚え対応をしたり、見たり、聞いたりする事が勉強になり楽しく仕事ができる様になってきました。

これからも、まだまだ学ぶ事だらけですが、自分の役割や立場を十分理解し、考えて言動や行動にも責任を持ち仕事をしていこうと思えます。

そして、どんな時でもしっかりとフォローしてくださる上司の方々は尊敬と感謝の気持ちでいっぱいです。

今は、その姿を目標にして仕事にも自身にも責任をもち、必要とされ

る存在になれる様に精一杯努力してまいりたいと思いますので、今後ともご指導よろしくお願いいたします。

八ヶ月の業務を終えて

伊達西根堰土地改良区

浅野 大輔

平成二十五年度四月より、伊達西根堰土地改良区に勤めさせて頂いております。浅野と申します。この度二十六年間勤められた柳沼好子さんが、三月末で定年退職され、私が四月より採用されてから、早くも八ヶ月が経ちましたが、あつという間の出来事のように感じております。

土地改良区に関してはほぼ無知の状態でのスタートで、どのような取り組みをしているのか、西根堰が何のために流れているのか全然分かりませんでした。しかし、農業に適した地域であったのにもかかわらず、用水が不足し稲作に大変苦労していたこの地域に西根堰は、先人方の多大な苦勞の末に造られたこと、今まで多くの人たちに「水」という名の希望を与え、そして今も私たちに大き

な恩恵を与え続けていることを、その歴史によって教えられました。先人方の大変な苦勞によって今の農業があることを実感しました。

この仕事に就いてから、多くの組合員の方と接する機会が増えましたが、恥ずかしながら、管内地理の土地勘に乏しく、農業の知識が皆無に近い私は、日々の業者や組合員さんの問合せに戸惑うばかりです。しかし、日々組合員の方と接することで、農業は個人では出来ないことが改めて分かり、その農業を熟知した組合員の方々と関わりを持ち仕事をしていくので、日々の業務の他にも多様な知識が求められる仕事だと実感しました。

現在まで業務経験がまだまだ浅い私は、日々の金銭管理や出納を主とする会計業務にしかまだ携わっていませんが、それでは現場や組合員さんについて知ることができません。もちろん、金銭関係の取扱いは間違いが許されないので、大切な業務の一端ですが、担当の仕事ばかりではない土地改良区の幅広さを理解し、今後は年末調整を乗り越え、現場や賦課金関係について教えてもらうことで、会計以外にも携わってほしいと思います。

私の生まれは万生寺の下堰端で、西根下堰が見える場所に住んでおりましたが、こうして仕事を通じて、多くの組合員の方と触れ合いながら、生まれ育った地域で先人の偉業を守っていくことは、本当にうれしいことだと思います。現在「TPP」の参加問題がありますが、関税撤廃やグローバル化の加速により、日本の輸出額・GDPが増大する反面、外国の安い農作物の流入や食品添加物・遺伝子組換え食品等の規制緩和による食の安全面への不安が出てきます。安全を維持するために、可能な限りは自分の国で生産し、少しでも食物自給率を上げることが目指すべきだと思います。農業従事者の高齢化や後継者不足も進む中、もっと農業が大事にされなければなりません。今後未来発展に繋がる県土連皆さまの飛躍を願い、復興を祈りつつ、これからも精進し目の前の課題に取り組んで参りますので、ご支援よろしく願いいたします。

お世話になります

福島市土地改良区

佐藤 喜孝

本年4月福島市土地改良区事務局長に就任しました、佐藤喜孝です。皆様には大変お世話になります。宜しく願います。

私事ですが、三十数年前農関係の仕事は経験ありますが、相当前のごとで浦島太郎状態で土地改良区にお世話になることになり、事務所の職員の皆様には大変迷惑をかけていることと思っております。

着任後、決算監査・理事会・臨時総代会の開催と初めての事に日々勉強が続いていますが、先日は土地改良法第132条の検査も経験し定款・規約・規程等詳細に見る機会があり大変参考になりました。

福島市土地改良区は、合併により現在の組織となっておりますが、19の各維持管理委員会があり、各々条件が違い賦課金もそれぞれの条件により徴収しており、福島市土地改良区としての維持管理計画書の作成が非常に困難ですが、賦課金徴収の根拠となる維持管理計画書の作成は、喫緊の課題となっておりますので、

関係機関と協議し早急に作成したいと考えております。

過日、大玉土地改良区主催によります県北方部土地改良区職員研修会に参加させていただき研修・交流を深めてきたところでありますが、それぞれ各土地改良区でも課題があるようで、今後研修会等に参加させていただき情報交換に努めながら課題解決に努力したいと思っております。

私自身も西根堰土地改良区の組合員で、少々田畑を耕作しておりますが、近年機械の大型化が進み機械が無いと、耕作が難しい状況です。機械の購入費用も高価で置場所も無く水田の植え付け等は委託しておりますが、管理は自分で行っています。兼業は労力的・経費的には、非常に大変ですが、極力田畑を荒らさないよう努力しているつもりです。将来は、どのような状況になるか皆目見当が付きません。

今後においても、農業を取り巻く環境は、高齢化・後継者不足そしてTPP問題、更には減反政策の大幅な見直しと非常に厳しいものがありますが、土地改良制度の有効な活用を図りながら組合員の皆様の生産基盤の確保、生活向上そして安全・安

心な農産物の確保に努力したいと思っております。諸先輩の方々のご指導ご鞭撻を頂きながら努力して参りますので、宜しく願います。



土地改良区業務に 従事して

昭和村土地改良区

本名 久喜

鵜川 洸一

当土地改良区が所在する昭和村は、福島県会津西部に位置し標高1、000m級の山岳に囲まれた盆地状の中にあり、地勢は一般に急峻な中山間地域にあります。村の中央部には阿賀野川水系只見川に注ぐ一級河川野尻川が貫流し、この河川の流域に狭長な谷底平野を形成し、主とした圃場はこれらの所に広がっており、気候は日本海型で盛夏の時期は短く、最高積雪量は2mにも達し特別豪雪地帯の指定を受けています。平坦部は海拔400〜750mの高冷地でもあり、厳しい自然条件の中で農業経営を行っています。

そのような中で、平成18年度をもって県営中山間地域総合整備事業奥会津地区が完了し区域内の主要な圃場は概ね20a程度を基本として区画整理されたところであります。

なお、整備された農用施設の維持管理は村及び集落において進めら

れ、償還業務を残すのみとなった土地改良区業務も平成21年度より村産業建設課の所管するところとなり、平成25年度より当職らにおいて村業務と併せ事務従事を兼務しているところとです。

昭和29年に設立認可を受け事業が始まった当土地改良区は村内の主要地区を編入し、現在受益面積394ha組合員数610名で一戸あたり平均64・5aといった小規模農家が主体で、田は水田単作、畑は花き・自家用野菜を主とした農家経営の受益地となっています。近年は水稲においては集落営農への取り組みが進み、農用地利用改善組合などの組織が村内全域に設立され農地の集積も促進されているところですが、少子高齢化の加速により農業の担い手が減少し、事業区域内での耕作放棄地の拡大が懸念されています。

このようななかで当土地改良区では平成21年度に国の地域活性化臨時交付金を活用し、区域内の耕作放棄地等の解消を図るため大型トラクターを購入して組合員に貸出事業を実施しています。また、農水省において実施している農地水環境保全向上対策事業では、平成19年度に4組織、平成24年度からは新たに6組織

が参加し、区域内全域で事業に取り組み、土地改良区として事務受託事業を実施し集落内の農用地の保全活動を支援・協力しています。今後も今以上に区域内の保全管理が促進されることを期待されます。

これからの昭和村土地改良区は施設の維持管理が主要業務となり、組織のあり方を検討しなければならぬ時期になってきております。現状では土地改良区の必要性に疑問を感じる組合員も多くなってきており、農業に従事せず事業に携わった経験のない世代では賦課金の意義も薄れて未収金となる場合もあるなど今後の懸念材料になっています。数々の課題が山積し組織の運営も難しいものとなっておりますが、今後も引き続き土地改良関係各機関のご指導を頂きながら日々の業務に努めて参ります。



初年度の内省と 今後の決意

安積疏水土地改良区

安中 雅伸

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

平成二十五年度より正式採用されました安中です。歴史ある安積疏水土地改良区で働けることに、責任とやりがいを感じる初年度です。

安積疏水土地改良区には、十六橋水門をはじめ、上戸頭首工、田子沼分水工などの歴史的にも価値のある施設や東日本大震災以降、需要が高まっている自然エネルギーの一つの水力を使った小水力発電所があり、施設に行くだけでも勉強になることが沢山あります。また、管理線が二百八十三路線・約五百三十キロメートル（福島県郡山市〜青森県むつ市位）もあり、管理線を覚えるだけでも一苦勞している毎日です。現在、水利課に属し、郡山市外二市一町一村にある管理線の水位調整や、工事の発注など維持管理をメインに仕事に励んでいます。

私は大学で土木工学を専攻し、測

量や力学を学び、農業土木も勉強してきたのですが、それ以外で、農業にそれ程携わったことがありません。今後福島県の農業を取り巻く環境は厳しくなることが予想されています。TPPの導入・減反政策廃止・後継者不足・風評被害といった問題や農業の法人化・六次産業化の充実といった次世代の課題にも取り組んでいかなければなりません。現場に行く機会が多い今の課で、少しでも組合員さんの力になればと考えております。

先日、総代研修に参加させて頂きました。研修先で仙台市東地区の津波による被災現場を見学したのですが、その場所は建物等の痕跡が全く無く、ただ瓦礫が山のように積み上がっているだけでした。東北農政局仙台東土地改良建設事務所の方の話だと、今年、営農再開した水田では平年と同等の収穫量がとれ塩害の被害もなく、農地の復興は着実に進んでいるとの説明だったのですが、私の目に映るその風景は、まだまだ復興の半ばなのだという印象でした。あの何もない風景に今後、逸走の圃場整備が進み美しい農地が蘇えることも復興の一つのシンボルであり土地改良区事務所の役目なのではない

かと、土地改良区事務所が東日本大震災にこれからのように関わっていくべきなのか、改めて考えさせられる研修でした。

まだ半人前の私ですが、組合員や役員、看護師、そして職場の先輩方の力を借り勉強していこうと思っています。また今後、他の土地改良区の皆様と一緒に仕事をする機会が出てくると思いますので、その際にはご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

一年間を振り返って

安達疏水土地改良区 三瓶 甚一

私は昨年十二月より安達疏水改良区にお世話になっております三瓶と申します。よろしくお願いいたします。

今年の十月より本採用され職員となりました。一年程前、十四年勤めた会社を退職し、求職中だったころに土地改良区のお話がありお世話になることになりました。土地改良区については以前理事をしていた父から大変な仕事だとは聞いていたが、実際どのような仕事をしてい

るのかは全く分かりませんでした。そのような状況で今の会計事務に携わり始めましたので、今までやったことのないような不慣れた業務に悪戦苦闘しております。

また、地元に住んでいるのに、土地勘があまりなく役員の方や組合員の方々にはご迷惑ばかりお掛けすることが多かったのですが、上司に助けられ、土地改良区の仕事を教えていただくたびに、その奥深さを実感し、多忙ながらも充実した一年間を送ることができました。

私の実家も米を作っておりますが、私自身ほとんど農業をやったことがなく田植えや、稲刈りなどほんの少し手伝うくらいでしたので、水路に流れている水もどこから流れてきているのかも分かりませんでした。

しかし、土地改良区にきて、今まで全く気にしたことなかったその水が、どれだけ費用と労力をかけて受益地内に送られているのか、どれだけ大切な水であるのかを知りました。これからは土地改良区の職員として、より良い農業ができるよう少しでも役に立てるよう努力したいと思っております。

今年度は、色々な研修会に参加す

る機会をあたえていただき、他の土地改良区の皆様とお話させていただきましたが、研修内容もそうですが、情報交換会なども諸先輩方の貴重なお話を聞くことができるので、機会があれば積極的に参加させていきたいと思っております。

一年が経ちある程度仕事内容も分かってきましたが、まだまだほんの一部にしか過ぎませんので、業者の方々や組合員の方々からの問い合わせにも戸惑ってしまうことがあります。ですが、その度に上司に助けられ親切、丁寧な教えていただいで感謝の気持ちで一杯です。上司から教えていただいたことを決して無駄にはしないよう、これからもっともっと経験を積み重ね、一日も早く一人前になれるよう努力し精進して参りたいと思います。今後も会員の皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

フツツカモノでは ございませうが・・

水土里ネット福島

佐藤 優祐

はじめまして。平成二十五年度より水土里ネット福島に入職いたしました佐藤優祐と申します。生まれも育ちも福島県伊達市です。

大学時代は経済学を専攻し、主に公共経済学やゲーム理論などを学んできました。公共経済学は、主に、市場取引では達成できない効率的かつ公平な資源配分を達成することを目的とする公共部門を分析対象とする学問です。今の仕事に照らして考えてみれば、水路の敷設、農業集落排水整備やほ場整備などは市場では取引困難なものばかりです。こうした公共財をいかに効率的かつ公平に設置するのかを考える際の手助けとなってくれるような学問が公共経済学です。

さて、三月に臨時職員として採用され、四月から正採用となり早十ヶ月が経とうとしているところです。私は、事務職としての採用でしたが、総合職として失敗を恐れずグローバ

ルな視点でチャレンジして欲しいと激励され企画指導課に配属となりました。入職してから三日後には、現場デビューを果たし、水路の中を歩いておりました。

私は、サラリーマン家庭に生まれ育ったため、農業に関する知識や経験が乏しく、見るもの聞くもの触れるもの全てが新鮮に感じられ、好奇心を駆り立てられます。それでも、母の実家が農業をしている関係から、田植えや桃の袋掛けを手伝ったことはあったのですが、実際に田んぼの真ん中を歩くという経験は全くの初めてのことでした。

以前の職場でも道路台帳として使っていました。GISを駆使することもまた初めてで、全く知識や経験のない私は周りに聞きながら見よう見まねで作業している日々です。

今は、土地連が持っている財産をフル活用し、市町村の除染対策事業に関する仕事をしております。そういう意味では、自分が携わっている業務が福島県の復興の一翼を担っていると大仰ではありますが、そう感じながら与えられた職務を全うするばかりであります。

入職してから今まで、市町村や他

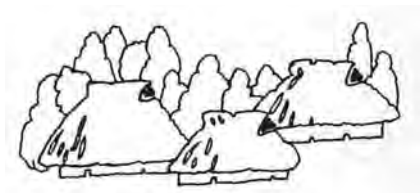
企業の様々な方とお会いする機会にも恵まれております。これほどまで様々な方とお会いし、一緒に仕事をするとおっしゃっていただけたので、巡り会えたことに感謝しつつ、このつながりを大切にしていきたいと思っております。

ところで、農業農村が持つ多面的機能については、恥ずかしながら入職してから考えるようになりました。新幹線の車窓から見える田園風景―都会のビル群から遠く離れて見えてくる―を見ると、福島に帰って来た気持ちになる、というのも多面的機能の一部であるのだと考えさせられます。この風景を次世代に引き継いでいくことも我々の世代に課せられた使命であると考えます。

先述したとおり、私は田園地帯の中で生まれ育ちましたが、農業畑の中を歩いてきた経験はないので、全くの素人同然です。しかし、空っぽの容器にはまだまだたくさんものが入る余地があります。これからもさらに知識や経験を身につけていきたいと思っております。

まだまだ、半人前で不慮者ではございませんが、今後とも皆さまからのご指導ご鞭撻を真摯に受け止め、初心を忘れることなく仕事に邁進して

参りたいと思っております。



猪苗代町土地改良区 職員となつて

猪苗代町土地改良区

佐藤 和貴

猪苗代町土地改良区に6月に採用となり、早いもので半年が過ぎました。

私は当土地改良区に採用される以前は、地元の建設会社に通算で12年程技術者として働いており、土地改良区発注の維持管理工事にも何度か携わったこともありました。

ですが、はずかしながら土地改良事業の仕組み等を何も理解しておらず、今になって経験不足だったと身に染みて実感しており、又、他人の財産に関わる業務でもあり、非常に難しい仕事だと思えます。

前職では会社の業績のために本気で働いてきました。これからは前職以上の気持ちで、組合員の皆さんのためになるように働いていきたいと思えます。

「一年目を振り返って」

会津大川土地改良区

芳賀 章平

会員の皆様はじめまして、平成二十五年四月より当改良区でお世話になっている芳賀と申します。生まれ育ちは会津若松市ですが、子供の時に家族でよく遊びに来ていた湯陶里温泉のある旧会津本郷町の事務所当改良区に勤められているのも何かの縁かと思っております。

当改良区に入る前までの「土地改良区」のイメージとしては、正直ピンと来ていませんでした。どんな仕事なのか、土地改良とはどういうものなのか、など疑問なことだらけでした。そんな気持ちで当改良区に勤め始めたせいか、すぐ壁にぶつかりました。それは農家の方々や業者の方と接して働くことでした。恥ずかしながら、私は生まれてこれまで農業を経験したことがありません。そのため、組合員の方に代掻きや中干しなどの農業用語を言われても分からず、対応することが出来ませんでした。また、組合員の方に現場を確認してほしいと言われた時や業者の方を現場に案内する時なども、受益

地域内の地理を理解できていなかった私は対応することができませんでした。とても悔しかったです。しかし、この経験によって気付くものもありました。それは、「知らないことは教えて貰う。全ての事が新鮮であり、己が全て学ばねばならないものである」ということです。現在は事務もこなしつつ、水調整などの現場も携わるという機会を与えて貰っています。また、今後始まる国営施設機能保全事業（国営ストマネ）の受益面積の調査や土地改良区の仕事を内容を地域住民にPRするためのパンフレット作成、土地改良施設をめぐるバスツアーの企画及び実施など、一年目で様々なことに挑戦し経験できたのは、先輩職員の方々をはじめ関係者の方々のおかげと思っています。今後もスポンジのように吸収し、何事にも挑戦していきたいと思えます。

また、先日開催された初期職員研修では、会津農林事務所の方々に講師として招き、研修内容の「ゲリラ豪雨への備えと対応」、「危機管理について」、「農業農村整備事業の新制度と拡充」など様々なことについてわかりやすく講義を頂き、貴重な体験をすることができました。特にこ

の研修で一番印象に残ったことは、「場数を踏んで学べ」ということでした。分からないことでも挑戦し考えてそしてやり遂げる、これを数多くこなすことで自分のスキルアップにつながるということです。現在の自分はまさしくこのことを実践し学んでいる過程なんだな、と実感できました。また、情報交換会では諸先輩方の貴重な話や目配り気配りのできた行動など見習わなければならぬということも見つかかり、有意義な時間を過ごすことができました。次回もこの研修があるならば是非とも参加したいと思えます。

日々勉強な私ですが、いつか自分が土地改良区を背負って立つ日が来るまでの修行期間と考えて、常に責任感と向上心を持ち、組合員のために尽力するという気持ちで日々の業務に携わって参りたいと思えます。今後ともどうぞよろしくお願ひ致します。

活力ある農業、農村づくりをお手伝いします。

水土里ネット福島はみなさんのパートナーです！

農業農村整備事業の調査・設計・施工管理

農業農村整備事業等は国及び県の補助事業として実施されるため、その調査・設計・施工には、関係機関との協議・調整の下、技術基準の適合性、経済性の説明が求められます。

本会は、この支援に長く携わってきており、高い技術力と経験を備えております。今後とも、より一層の会員サービスに努めてまいります。

ほ場整備事業の支援

ほ場整備事業においては、計画から実施設計、換地処分までを一体的な業務と捉え、技術支援を行ってまいります。

計画策定においては、換地計画を見捉え、権利者や関係機関との連携により、地域実情にあった計画樹立に努めております。

農業集落排水事業の支援

農業集落排水事業においては、調査・計画・実施・施工管理・維持管理のすべての業務に一貫して携わり、経験豊富な高い技術力を備えた技術者が多数おります。

関係機関との連携の下、適切な処理方式の選定など地域の実情に即した提案に努めてまいります。

農地・水・環境保全向上対策や水土里情報システム(GIS)への取り組み

農地・水・管理支払交付金事業や水土里情報システム(GIS)の構築など新たな事業に、これまでの技術や経験の蓄積を活かして積極的に取り組み、関係機関との連携の下、地域農業の発展や農業農村の振興に貢献するとともに、人・農地プランやハザードマップの作成支援、農業用排水施設の維持管理(ストックマネジメント)支援にも努めてまいります。



水土里ネット福島の登録内容

- ISO9001:2008/JIS Q 9001:2008 (H24.2.16付、登録証番号JQA-QMA13143)
- 建設コンサルタント (H22.12.3付、建22第7079号、農業土木部門)
- 一級建築士事務所 (H24.4.9付、第11(904)1975号)
- 計量証明事業登録 (H7.7.3付、第環34号)
- 測量業者登録 (H22.9.7付、登録第(1)-032811号)
- 浄化槽保守点検業者登録 (H24.5.14付、福島県知事登録第1353号)
- 農業農村整備事業発注者支援機関認定 (H23.4.1付、第1107号)



みどり
水土里ネット福島
(福島県土地改良事業団体連合会)

〒960-8502 福島市南中央三丁目36番地
TEL: 024-535-0371 FAX: 024-535-1200

<http://www.midorinet-fukushima.jp/> E-mail: info@midorinet-fukushima.jp